校長室通信

南小国町立南小国中学校

令和元年５月 15 日（水）No4

文責　狭間卓史

学び続ける姿勢

４月２４日（水）、本校職員の校内研修会の一環で研究授業を実施しました。どの学校でも同様ですが、私ども教職員は年間を通じて様々な研修を行っており、それは校外での研修会の場合もあれば、校内での研修会の場合もあります。

この日は校内で全職員参加の研究授業を実施しました。その授業に取り組んでくれたのは古庄亮裕教諭（今年の本校研究主任）です。私たちが研究授業に取り組むのは、それぞれの授業力の向上を図り、生徒の学力向上につなげるという目的があります。とは言え、４月のこの時期に研究授業を行う学校は、私は知りません。年度初めの時期でもあり、研究授業を行うだけの体制が整っていない現状があるからです。本校でも家庭訪問や体育大会の練習の時期でもありました。しかしながら、あえてこの時期に入れてきた担当者（昨年度担当者の田上茉依教諭と本年度担当者の古庄亮裕教諭）の意気を感じる研修会でした。忙しさを口実にすれば、年間を通じて何もない月はありません。ならばいかに計画的に取り組んで行くのかということに尽きます。見通しを持って取り組めばどんな時期でもできるということ、どんなに忙しくても日々の授業を大切にするという姿勢を感じることができて嬉しく思いました。私たち教師が生徒の前に立つためには、絶えず学び続ける姿勢が問われます。その姿勢について、あらためて問われた気がしています。

また、研究授業後には、その授業を振り返る研修会も実施しましたが、その場には生徒代表で秋好せいごさん、佐藤あずささん、佐藤りょうまさんが参加してくれました。この場に生徒が出席するということについても、私自身はこれまで経験したことがなく、正直、驚きでしかありませんでしたが、三人の生徒が、授業を受けた感想等について、それぞれに自分の言葉できちんと語るその姿に、南中生の力をあらためて感じる機会となりました。これからどこまで高めていけるのか楽しみです。

大切にしたい姿

連休前のことです。きよらパトロール隊に加入した私が、パトロール待ち合わせのために役場前の駐車場にいた時のことです。遠くに下校途中の本校生徒の姿が見えました。その生徒は横断歩道にさしかかると、押しボタン式の信号を使って道路を横断していきました。すると、横断し終わった後に振り返り、信号で停車してくださった車に向き直り一礼。その姿はとても自然で、日頃からそうしていることが伝わってきました。爽やかで凛としたその後ろ姿を眺めながら、こういう姿を大切にしたい、育てていきたいとあらためて感じた次第です。南中生の素敵な姿をまた一つ知ることができました。